

東京 11 発走 15:45

Main race table with columns for race number (桃16, 15, 14, 13, 12, 11, 10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1), horse name, jockey, and various statistics.

Table with columns for horse name, jockey, and various statistics, likely a continuation of the main race data.

Table with columns for horse name, jockey, and various statistics, likely a continuation of the main race data.

Table with columns for horse name, jockey, and various statistics, likely a continuation of the main race data.

本紙の見解 府中で巻き返すフェイム
フェイムゲームは昨年のこのレースの覇者。前々走のアルゼンチン共和国杯も楽勝で、東京コースの長丁場はベスト。ちなみに、前々走は⑤着馬がその後重賞を勝つ、ハイレベルの一戦でもあった。当時から1キロ増58キロなら、ハンデも十分許容範囲。復調確かなフアタモルガナ、実績上位のラビズブッシュが相手。

相本 複連
昨年は3分30秒2の好時計で完勝したフェイムゲーム。今年、小差善戦の天皇賞(春)だが、小差善戦の天皇賞(春)、宝塚記念でこなしている。伏兵は54キロのネオブラック。

競馬人情 吉川良

友だちの大王の孫で、父親と同じく大王になった27歳の北村弘くんがいるのだ。騎手の北村宏とヒロシの字が違ふだけ、その名前が影響されたのだろう、競馬が好きになった。「パレンタインデーが仕事休みだったんだけど、チョココくれる彼女もいないし、久しぶりに競馬場へ行っただけよ。」

9Rのテレビ山梨杯で北村宏の1番人気、キミノナハセントターの単勝を5000円買ったから、勝って310円。1万5000円になった。

10R銀蹄Sの北村宏の2番人気、パードレイグルのオッズは4・8倍。単勝1万行った

11Rは出てなくて、12Rの北村宏の3番人気、アンレールの単に5000円行った。オッズは6・4倍。ドキドキ。

アウト。7着。競馬はアマクネエてやっ。仕方なく笑った。その次の日、北村宏は1万2000回の騎乗達成だって。それってたいしたもんですね。大工のキタムラヒロシもがんばらなくっちゃ。

1万2000回騎乗達成の祝いで、ダイヤモンドSの北村宏のフェイムゲームの単を5000円、お願いします。仕事で馬券、買に行けないので」と北村弘くん、私の手に5000円札を渡した。

私はステラウインドからの馬単。パードレイグルナハ、フェイムゲームへ。

「ダートといえば、ハイセイコー、タケシバオオなどの「チャイナロック(父ロックフェラ)」の時代があった。」

などと述懐するファンは十分に古いが、系統の連続性が大切な競馬の世界では、必ずしも古典や昔話ではない。

ハイセイコー(70)と同期のアメリカには、3冠馬セクレタリアトがいた。ポールドルラー(父ナスルーラ)直仔だった。チャイナロックの父系は消えたが、ポールドルラーの父系は力強くつながっている。

ポールドルラーから3代後には、77年の米3冠馬シアトルスルーが出現し、その直仔A.P.インディ(89)が、上のRに産駒を送る『孫のタビット、同じく孫のシスターミニスター、これも孫世代のパイロ』など、巨大な父系を再現させた。

スローペースから単純な上がり勝負にはならない今開催の芝コース。力勝負になりやすい馬場状態です。

6Rからコスモヨハネ。オープン挑戦で出遅れてしまった前走、初戦とは全く違う競馬になりましたが、しっかりと伸び脚を見せています。前走の経験を生かして、自己条件で巻き返し。

7Rはナイフリッジ。イン狙いの前走は前がさげせず、脚を余した格好。スムーズなら勝ち負けの勢い。期待の素質馬が休養で復調気配を見せています。

10Rはゴディリア。重賞挑戦で道悪も苦しかった前走は度外視。逃げる形から、一変の競馬を見せた前々走が好内容。成長力が魅力な馬、前々走と同条件で改めて狙います。



小木曾大祐

☆成績欄に前半3F時計☆

「各馬の前半3ハロン通過時計」を、成績欄の通過順の右横に表記しております。各馬のダッシュ力と比較、検討に役立てていただければ幸いです。なお、レースの流れは、馬体重の横に「H」ハイ、M「平均」、S「スロー」のそれぞれマル囲み表記で示してあります。

なお、千メートルのレースについては、前半2ハロンの時計を表記しております。また、障害戦、一部の公営競馬については計測できませんので省略してあります。

「初の」長距離が狙い時

ダンスインザダーク産駒はダイヤモンドS(3217)だが、初めてダイヤモンドSに出走した時に限ると「3214」。

エイシンゲードマンは、④↓⑥↓④着と出走するたびに着順を下げてしまった。2010年は57キロで勝ったフォゲッタブルは、2013年に56キロで⑦着だった。



大川浩史

フォゲッタブルは3年経って衰えていただけでも、ステイヤーズでも2009年①着、2010年⑤着、2011年⑦着、2012年⑩着だった。

ダンスインザダーク産駒は菊花賞(3206)なのに、対し、天皇賞(春)は(0018)と、②着もないことでも有名だが、菊花賞はすべて「初の三千(以上)」だったことが大きいのではないかと。要するに飽きっぽいのだと思う。

昨年③着のタニノエボレットではなく、三千以上が初めてとなるカムファイを狙いたい。

東京リーディングジョッキー (2015年2月15日終了現在)

順位	騎手名	所属	①特別	②着	③着	④着	⑤着	着外	連対率	通算勝利
①	蛸	名(フリー)	9③	3	5	7	2	18	.273	2318
②	べ	名(フリー)	8②	4	0	2	2	26	.286	65
③	福	永(フリー)	6③	3	1	2	1	6	.474	1725
④	北村	宏(フリー)	5①	3	0	8	9	32	.140	1109
⑤	田	辺(小西)	4①	5	4	6	1	27	.191	475
⑥	柴	山(フリー)	4---	4	1	0	1	37	.170	379
⑦	山	藤(フリー)	4①---	3	3	3	1	26	.175	1444
⑧	柴	後(フリー)	3	3	6	1	2	13	.214	86
⑨	横山	典(フリー)	3---	2	1	3	3	21	.152	2537

- ### 万葉S1〜3着馬の成績
- 17年チャクラ
 - ハイフレンドライ
 - 18年ファストタテヤマ
 - マッキーマックス
 - 19年バイロイト
 - トウカイトリック
 - チャクラ
 - 20年アドマイヤモナーク
 - 22年トウカイトリック
 - モンテクリスエス
 - メイショウドンタク
 - 23年コスモドゥ
 - モンテクリスエス
 - スリーオリオン
 - 25年エイシンジューライン
 - 26年タニノエボレット
 - ラブラドライト
- ※着順は上が万葉、下がダイヤモンド

3 / 3 ページ